Pick Up！

＃17 今永昇太

「１戦目、３戦目もしっかり勝ってこそエース」今永は今季、この言葉を何度も口にした。今シーズン、思うような投球ができないでいた。要所で痛打を浴びたり、ストレートが走らない試合も少なくはなかった。

中大１回戦、自身は５回３失点で降板、継投した高橋涼平の好援護で今季初の勝ちがついた。試合後、「今までは結果ばかり気にしていて縮こまって、晴れ舞台ということを忘れていた。開き直って、楽しむ気持ちで投げたい」と語った。その後の３回戦、５回２死三塁の危機、自己最速の 146 キロを記録するストレートで見逃し三振。そしてガッツポーズ。その後の試合も敗れはしたが、「ピンチをピンチと思わない」今永らしい投球を見せた。

今季、２勝できたカードは０。１勝６敗でリーグ戦を終えた。入れ替え戦、“エースの定義”を果たすことができることを期待したい。（五十嵐秋音）

＃10 柳原　悟

亜大戦２戦目は負ければ入替戦が決まる大事な試合、この日も代打での出場となったがきっちり結果を残した。４点を追う８回の先頭打者で回ってきた。「集中して緊張もしていた」と話したがしぶとく中前安打を放った。この秋は代打での出場が多いが、「与えられた場所で仕事をする」と中大戦２戦目では代打本塁打を放った。規定打席には到達していないが、打率は３割を超えている。「下級生に、副キャプテンとして試合に出ていない人にも貢献できることはあるということを表現して伝えていきたい」と力強く話した。（山本春熙）

★BLUE　PEGASUS★

ある１戦のエピソード・・・

中大1回戦、試合開始直後、前日までの台風の影響で観客は一層少なく、東都TOP2といわれる両校応援団の楽器演奏・チアもなし。静かに試合が始まろうとしていた。

そんな中、駒大の攻撃が始まると、いつものメロディーが聞こえてきた。レフトスタンドには、「駒大コンバット」を笑顔で歌い、応援する応援委員の姿があった。この日は台風の影響もあり、華やかな応援は自粛。“自由参加”で 20 人ほどが神宮に集まった。「見ていたら気づいたら声を出していて、応援したい気持ちが前に出て静かにはしていられなかった」と笑顔で話すのは関口絢子ブラスバンド長（歴4）。神宮第二球場ではブラスバンドの演奏は禁止されており、応援委員もこの日と同じように声での応援をしていた。伊藤りさチア長（経4）も「2部のときも選手は応援に応えてくれていたので」と笑顔。この日野球部は熱い応援に応えるように白星を奪取した。（五十嵐秋音）